

本会記事

講演大会における発表について

当協会平成30年度秋季大会は、ご案内の通り10月30日、31日の2日間、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにおいて開催されます。新潟での開催は当協会としては初めてとなりますが、地元を中心とする先生方、関係企業のご支援を得て多くの参加を得たいと思っております。

今回の大会は、例年より少ない129件の講演があります。129件の内訳は、講演特集63件、企画セッション24件、一般講演42件となっています。

現在の講演大会における講演のセッション構成は、講演特集、企画セッションおよび一般講演となっており、各大会において講演特集での発表が多くなっています。

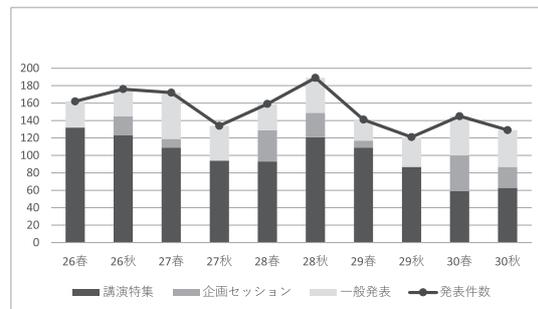
このセッション構成について、現在最も講演件数の多い講演特集は、一般講演が減少傾向にあった昭和52年に始まりました。創立20周年に当たる同年に講演大会の充実策として提案され、企画委員会を中心にテーマおよび実施方法を検討の結果開始されました。その後、企画運営の主体を分科会および分科会委員会にお願いして実施してきております。現在、3分科会と19委員会の主査および委員長にテーマを提案頂いて、各講演会毎に6テーマ程度実施していただいております。

企画セッションは、講演特集でカバーされない分野を対象とする特定テーマによりセッションを構成していただくもので、平成20年から始まりました。この企画セッションは、最近ではほぼ毎回実施していただいております。テーマによっては、既に複数回実施されたものもあり、継続して実施されたものの中から、分科会委員会として「粉末積層3D造形委員会」、「電子部品材料委員会」および「遷移金属（希土類）材料委員会」が誕生しています。

この講演大会のセッション構成について今秋季大会から過去5年の構成別発表件数の推移を下記の表及びグラフに示します。

講演発表件数推移

	発表件数	講演特集	企画セッション	一般発表
26春	162	132	0	30
26秋	176	123	22	31
27春	172	109	10	53
27秋	134	94	0	40
28春	159	93	36	30
28秋	189	121	28	40
29春	141	109	8	24
29秋	121	87	0	34
30春	145	59	41	45
30秋	129	63	24	42



今年秋を含め過去10回の講演大会において、平成26年春～28年秋にはほぼ160件以上の発表があり、特に、28年秋189件、26年秋176件とこの2回は発表の多い大会となっています。しかし、29年春以降は毎年減少傾向にあり、特に今回の秋季大会は129件という状況になっています。また、27年秋はアジア粉末冶金国際会議（APMA2015）の開催と重なったため134件と少なく、29年秋は創立60周年国際会議（JSPMIC2017）の開催と重なったため121件と少なくなっています。

過去10回の講演をセッション構成別にみると、全講演1530件の内講演特集990件（64.7%）、企画セッション169件（11.0%）、一般講演371件（24.3%）となっています。このように、講演大会の発表は講演特集を中心に行われていることが分かります。しかし、今回の秋季大会では、講演特集の件数が減少し、一般講演の割合が相対的に増加しています。

協会の活性化は、講演大会の充実、会誌への投稿の増加および分科会活動の活発な展開が重要な課題となります。従って、今後、分科会の活発な活動を促し、これによって講演特集の充実を図ると共に、新規分野での興味深いテーマによる企画セッションの拡大を図っていく必要があると思われま

会員各位には、こういった今後の協会活動への積極的な提案と参加をいただきますようよろしくお願い申し上げます。
（高山 義弘）